

「発達障害啓発週間 2009」報告

4月2日の世界自閉症啓発デーの制定を機に、日本発達障害ネットワークでは、関係機関と共に4月2日からの一週間(4月2日~8日)を、日本における「発達障害啓発週間」とし、発達障害について、広く国民に知っていただくことにより、発達障害のある人とその家族への理解と支援が広がるよう、「発達障害の支援を考える議員連盟(超党派による国会議員147名が加盟)」や国及び地方公共団体とも連携し、全国各地の発達障害のある人やその家族や支援者の皆様に呼びかけ、4月2日のWAAD中央行事への協力をはじめ、4月2日~8日の発達障害啓発週間には、大阪・東京・札幌など全国各地で加盟団体や理事たちが中心となり、JDD ネット主催/共催/後援イベントの開催などにより発達障害啓発週間を展開しました。

大阪では4月5日(日)、日本発達障害ネットワーク主催、大阪医科大学LDセンター共催により、公開講演会「一人ひとりの豊かな人生のために今、できること~思春期に対応を中心に~」として下記のプログラムが開催されました。

講演1「高機能広汎性発達障害はどこでつまづくのか」講師 ニキ・リンコ氏

講演2「思春期・青年期のADHDへの関わり」講師：岩坂英己氏

講演3「豊かな青年期を見据えて、今、大切なこと」

講師：竹田契一氏(JDD ネット理事)

講演4「特別支援教育に望むこと」講師：品川裕香氏

当事者・保護者・教育関係・支援機関など参加者273名があり好評でした。

発達障害者支援の体制整備は、格段に進展しているが、特に今後の課題と思われる発達障害のある人の思春期・青年期に対する理解と支援に焦点をあてての4本のリレー講演の実施により、思春期、青年期の現状や課題を、参加した当事者、保護者、専門家が共有することが出来、また発達障害のある人が豊かな人生を送るために、今出来ることは何かをと共に学び、考える機会となり、発達障害啓発週間にふさわしいイベントとなりました。

東京では4月5日(日)、NHK・NHK厚生文化事業団と日本発達障害ネットワークの共催によりNHK ハート・フォーラム「発達障害 先生や友だちに理解してもらおう~とも学び育つために~」として下記のプログラムが開催されました。

第1部 講演

「親の働きかけでクラスが変わる~先生と友だちを味方に~」

講師：田中康雄氏（JDD ネット代表）

第2部 実践紹介

「本人への告知とカミングアウトの上手な方法～我が家の場合～」

NHK との共催ということもあり、テレビ などでも呼びかけをいただき、当日は 576 人もの参加者をお迎えすることが出来ました。首都圏外からの参加もあり、また、保護者や教育関係者だけでなく、医師、ST,PT,などの皆さんの参加もありました。

発達障害のある子どもが充実した学校生活を送るために重要な、障害についての本人や周りの理解：保護者として教師とどのようなコミュニケーションをとればよいか、また本人への告知の仕方やタイミング、クラスの友だちには障害についてどのように伝えればいいのか……など、“先輩”保護者の体験談を交えながら参加者とともに考える機会を提供することが出来ました。わかりやすいことで定評のある医師による講演とNHKのテレビ番組のビデオなども紹介した体験報告「本人への告知とカミングアウト」という親の立場の話との組み合わせが大変好評でした。

NHK ラジオ第二「ともに生きる」（4月19日（日）8:00～8:30 再放送は同日 19:00～19:30）でもフォーラムの内容が紹介され、発達障害啓発週間のイベントとして、広く啓発する機会となりました。

札幌では4月4日（土）北海道学習障害児・者親の会「クローバー」主催、日本発達障害ネットワーク後援によりテーマ「広げよう支援の輪」として下記のプログラムが開催されました。

第1部 基調講演

『実力を出しきれない子ども達～ナチュラルサポーターを増やそう～』

講師：高山恵子氏（NPO 法人 えじそんくらぶ代表）

第2部 シンポジウム 『発達障害の現状と課題』

コーディネーター：田中康雄氏（北海道大学大学院教授 / クローバ-顧問）

シンポジスト：室橋春光氏（北海道大学大学院教授 / クローバ-顧問）

齊藤真善氏（北海道教育大学准教授 / クローバ-顧問）

高山恵子氏（NPO 法人 えじそんくらぶ代表）

保護者・教育関係・支援機関・当事者など参加者 258 名があり好評でした。

当日は、北海道教育庁から「教育支援計画の活用」啓発のために作成されたリーフレットの説明、また、北海道保健福祉部からは、「第2期北海道障がい福祉計画」に関する説明が行政の方々から行われ、行政と親の会との連携もアピールすることができました。

このたびのフォーラムで、参加者と登壇者の気持ちが一体となった盛り上がりを感じることが出来、北海道において今後更に、発達障害のある子ども達への理解と支援の輪が広がることを確信しました。 【報告：高山恵子 / JDD ネット企画委員会委員長】